

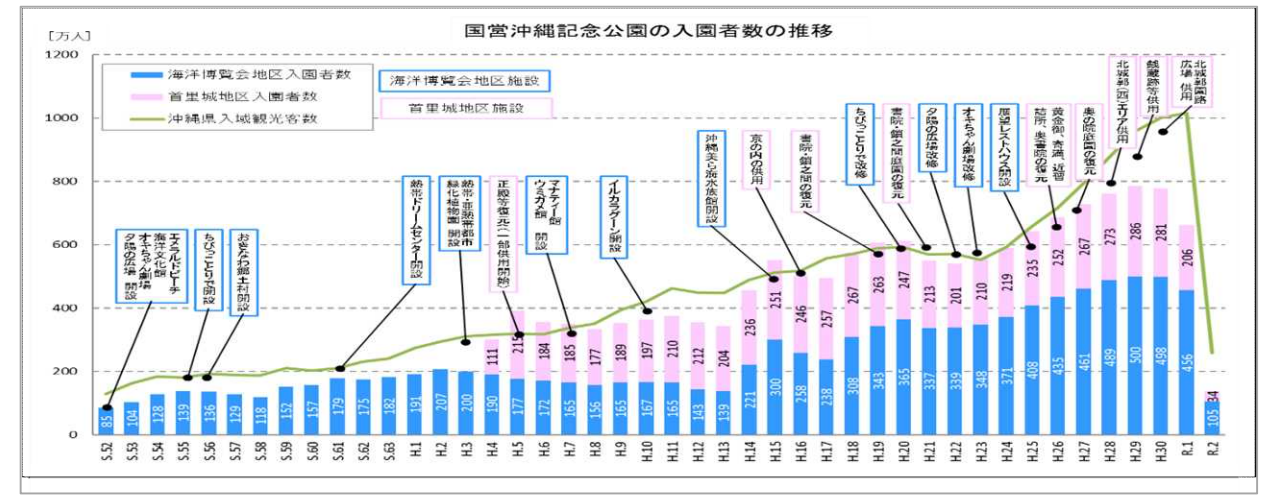
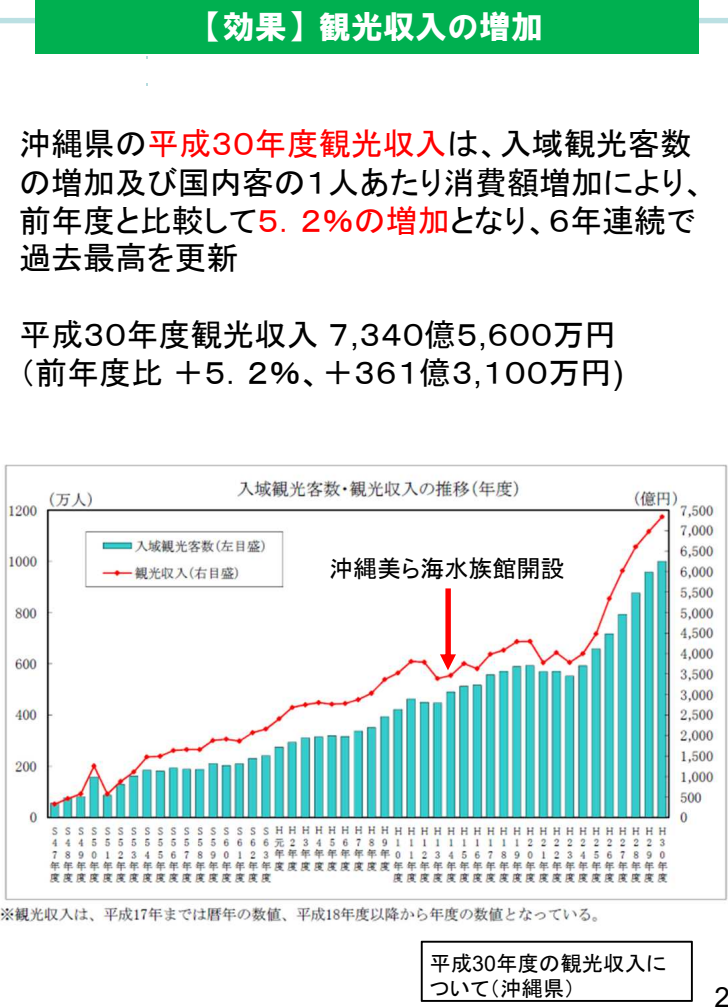
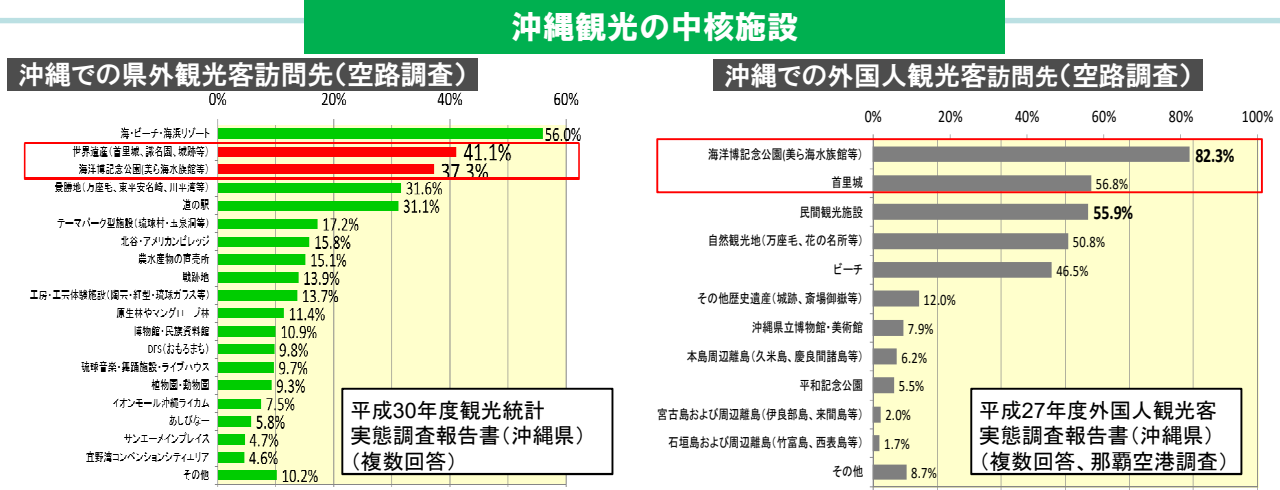
第 1 部 (2) 沖縄の振興・発展に向けた 社会資本整備

観光客1200万人時代に対応できる社会資本整備を推進していくため、令和2年度においては、次に掲げる取組を実施した。

1. 観光資源の整備
2. 観光地等の地域支援
3. 交通網の整備
4. 情報発信の拡充

1. 観光資源の整備【国営沖縄記念公園は沖縄観光の中核施設】

- 国営沖縄記念公園（海洋博覧会地区、首里城地区）の令和元年度入園者数は約661万人と沖縄を訪れる県外観光客、外国人観光客の多くの方々が訪れる沖縄観光の中核施設となっている。
入園者数の内訳は海洋博覧会地区は約456万人（前年度比8.4%減）、首里城地区は約206万人（前年度比26.6%減）
- 沖縄県の観光収入は、平成25年度から6年連続で過去最高を更新しており、国営沖縄記念公園は観光振興に貢献している。



1. 観光資源の整備【沖縄観光の拠点として海外へ積極的にPR】

- 国営沖縄記念公園では、沖縄の観光振興の中核として、OCVB（沖縄観光コンベンションビューロー）等と連携して海外への情報発信を行っており、また、海外での紹介状況からニーズ等についても把握していきます。
- 海外からの取材、ロケを積極的に受け入れ、様々な海外メディアによる情報発信を通じて、アジア、欧米、豪州など諸外国での沖縄観光等のPRに貢献しています。
- 令和元年10月の火災により焼失した首里城の復元に向けて、観光振興や復元過程の公開等の地域のニーズに対応した施策を推進していきます。

沖縄観光の代表的施設として、旅行系の情報番組などに多数取り上げられています。

○シンガポールのTVドラマ

「インターネットから抜け出せない」のシーン収録
沖縄美ら海水族館にて主人公が観覧する様子を撮影

撮影：2020年1月8日



○中国吉祥航空の機内映像撮影

観光スポットとして、沖縄美ら海水族館及び熱帯ドリームセンターにモデルを配置し撮影

撮影：2019年4月25日



○タイ大手飲料メーカーのインセンティブ旅行撮影

旅行の様子を撮影し、同会社のSNSに掲載やTV番組で放送。

撮影：2019年9月12日



○SATI(ドイツの民放キー局)の旅番組

「Grenzenlos」の収録

撮影：2019年10月22日



○ベルギーeen局のドキュメンタリー番組

「Op een」の映像収録

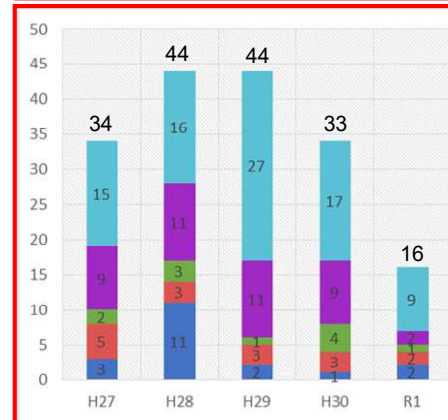
撮影：2019年6月9日



海外からの取材・ロケ(海洋博覧会地区)



海外からの取材・ロケ(首里城地区)



■ 欧米・その他
■ 東南アジア
■ 台湾
■ 韓国
■ 中国

首里城の復元過程を公開し、「見せる復興」として観光振興に貢献していきます。



御庭(有料区域内)や首里城正殿跡等に見学者用デッキを設置。
復元に向けた工事過程をあわせて公開。



首里城正殿遺構(世界遺産)を保護する覆屋に見学窓を設置。

1. 観光資源の整備【首里城復元にかかる観光振興への取り組み】

- 令和元年10月31日の火災以降、首里正殿等の復元に向けて、破損瓦等の撤去や焼失した建物の解体等を進めるとともに、首里城正殿遺構等の一般公開を実施。
- 今後は、一般公開をはじめとする「段階的公開」、正殿を皮切りとした「首里城復元」、それらの実施を通じた「地域振興・観光振興への貢献」に取り組んでいく。

首里城復元に向けた「3本柱」

段階的公開

首里城復元に向けて進む破損瓦等の撤去や躯体の解体、復元工事の様子を、安全性を確保しながら一般公開を進める。



正殿遺構の覆屋と公開用仮設デッキ

首里城復元

令和4年中の首里城正殿の本体工事の着工に向けて、関係機関と密に連携を図りながら、首里城復元に向けた技術検討委員会での検討を進める。



令和元年度
第3回首里城復元に向けた技術検討委員会

地域振興・観光振興への貢献

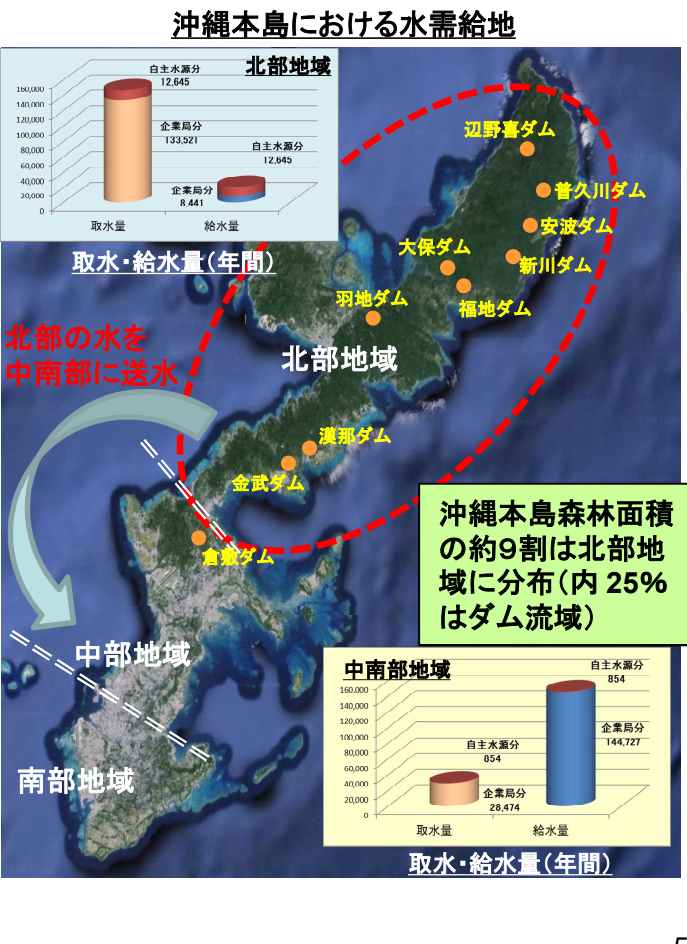
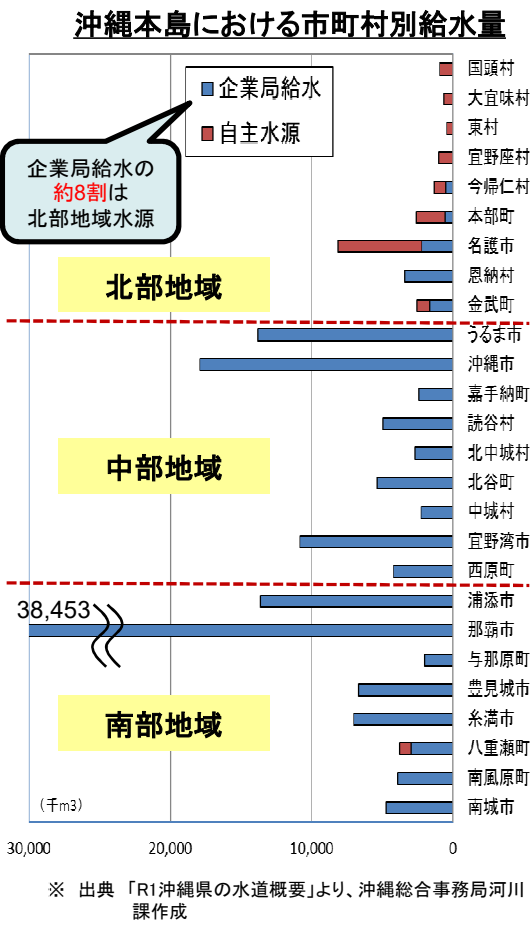
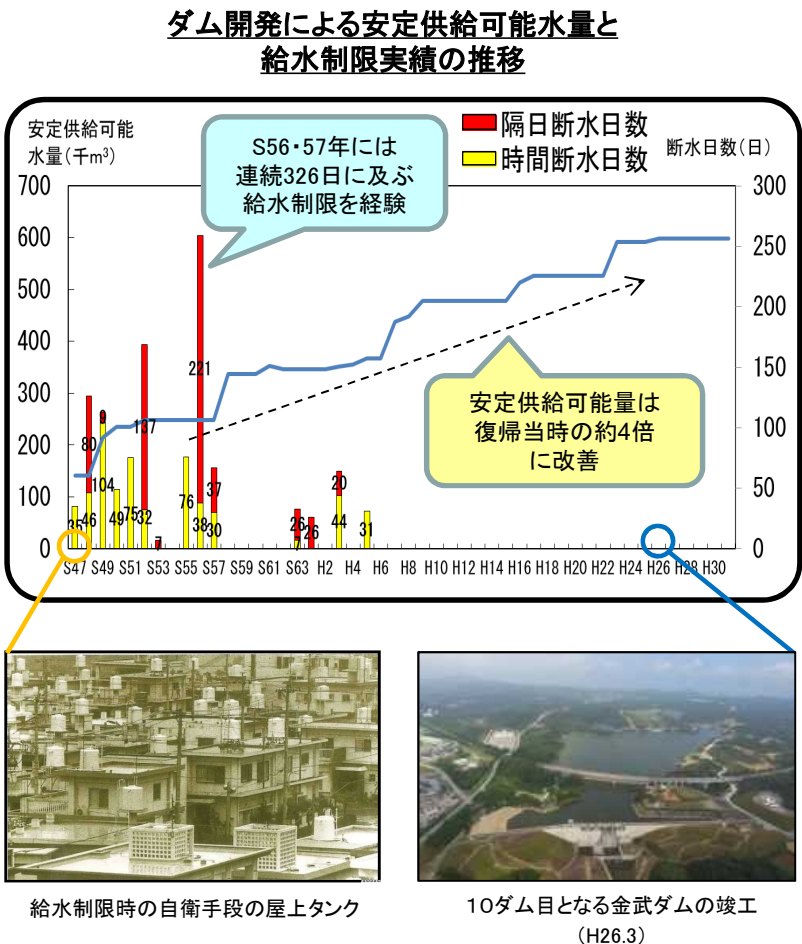
首里城の段階的公開、首里城復元に向けたボランティア活動や公園イベントの開催を通して、沖縄の地域振興・観光振興への貢献に努めていく。



首里城赤瓦漆喰はがしボランティア

1.観光資源の整備【沖縄県本島を支える北部地域の水源地】

- 多目的ダムが現在の水準まで整備される以前は、毎年のように給水制限(断水)が行われていた。復帰以降10ダムの建設を推進した結果、水事情は大幅に改善された。平成6年度以降は給水制限が実施されていない(R3年3月1日で連続給水満27年)など、沖縄県の経済発展、生活水準の向上に寄与。
- 水資源は主に北部やんばるのダムに依存している一方、消費地である中南部に人口及び経済活動が集中しており「北水南送」の状況。
- 沖縄の命の水を育むやんばるの水源地域の保全は、重要な課題。



2. 観光地等の地域支援 【沖縄北部ダムツーリズムの推進】

- ダム施設を観光資源として活用した管理者メニュー、ダム湖面等ダムエリア内でNPO等が実施するメニューや民間の旅行企画など多様な取組や連携を併せ、沖縄北部ダムツーリズムと呼称。
- 流域における市町村等の観光プロジェクトと連携し、世界遺産登録地を含む水源地やんばるの活性化を支援。



2. 観光地等の地域支援【日本旅行業協会沖縄県支部との連携】

- 沖縄総合事務局では、ダムやダム湖を地域の資源として捉え、水源地の自然の魅力を活かした観光、交流活動を通して森や水の大切さを体感する「沖縄北部ダムツーリズム」を推進。
- その一環として県内旅行業界（（一社）日本旅行業協会沖縄支部）のツアー企画担当者を招き、現地見学会を開催。
平成26年度から実施し、今回で5回目の開催。
- 今回は、漢那ダムやダムを含めた地域（宜野座村）の観光資源を体感して頂き、地元の自治体や観光協会とダム ツーリズムの可能性について意見交換を実施。

【開催概要】

日 時：令和元年12月19日（木）

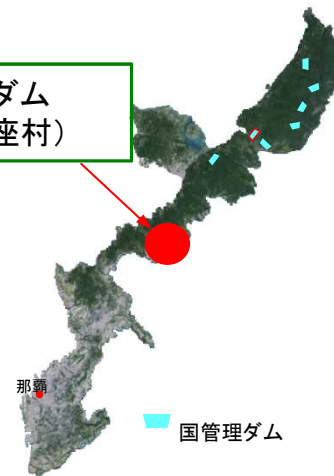
場所・内容：漢那ダム（本ダム堤体、監査廊、資料館見学）

宜野座村内（道の駅ぎのぞ、かりゆしカンナタラソラグーナ、松田鍾乳洞～
メーガー洞と周辺史跡巡り～、宜野座村立博物館）

参 加 者：JATA（日本旅行業協会）関係者（14名）

宜野座村役場、（一社）宜野座村観光協会、沖縄総合事務局

漢那ダム
（宜野座村）



漢那ダム本ダム堤体



漢那ダム魚道



道の駅ぎのぞ 見学



漢那ダム 監査廊 見学



かりゆしカンナタラソラグーナ見学



松田鍾乳洞 体験



宜野座村立博物館 見学

- R2年度は、個別会員との意見交換を実施。
- R3.1月頃に民間旅行代理店主催のバスツアーによる安波ダム見学が予定されていたが、緊急事態宣言の発令によりツアー中止。

2.観光地等の地域支援【「道の駅」による地域活性化(物産,観光,防災)】

- 沖縄県内の「道の駅」は10駅（全国1,193駅 ※令和3年6月時点）。
- 地域の個性・魅力を活かして、物産、観光、防災面で、地域活性化に貢献。

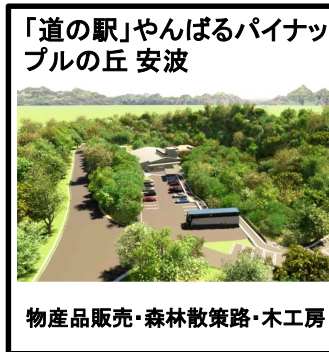
「旅好きが選ぶ！道の駅ランキング2020TOP30」

1位「道の駅」許田、5位「道の駅」いとまん、
20位「道の駅」ゆいゆい国頭、23位「道の駅」かでな
★県内10駅中4駅がランクイン
(旅行口コミサイト「トリップアドバイザー」発表)



「道の駅」ゆいゆい国頭

農産物直販所



「道の駅」やんばるパイナップルの丘 安波

物産品販売・森林散策路・木工房



「道の駅」おおぎみ

特産品販売施設



「道の駅」サンライズひがし

特産品加工販売諸等



「道の駅」許田

フードコート



「道の駅」ぎのざ

イベント広場



「道の駅」喜名番所

観光案内所



「道の駅」かでな

展望台から嘉手納基地一望



「道の駅」いとまん

お魚センター



「道の駅」豊崎

情報ステーション・休憩スペース

2.観光地等の地域支援【地域に根ざした「道の駅」】

- 「道の駅」では、そこでしか買えない、新鮮な地元特産品等を販売。
- 高齢者農家や学生との連携など、地元と密着した活動を推進（農家の育成や収入増にも貢献）。

- 「道の駅」で、**地産地消を促進するイベントを開催**
- 規格外農産物(イチゴ)をケーキに加工し販売、**農家の収益に寄与**



地産地消を促進するイベント開催
(宜野座村産業祭り)

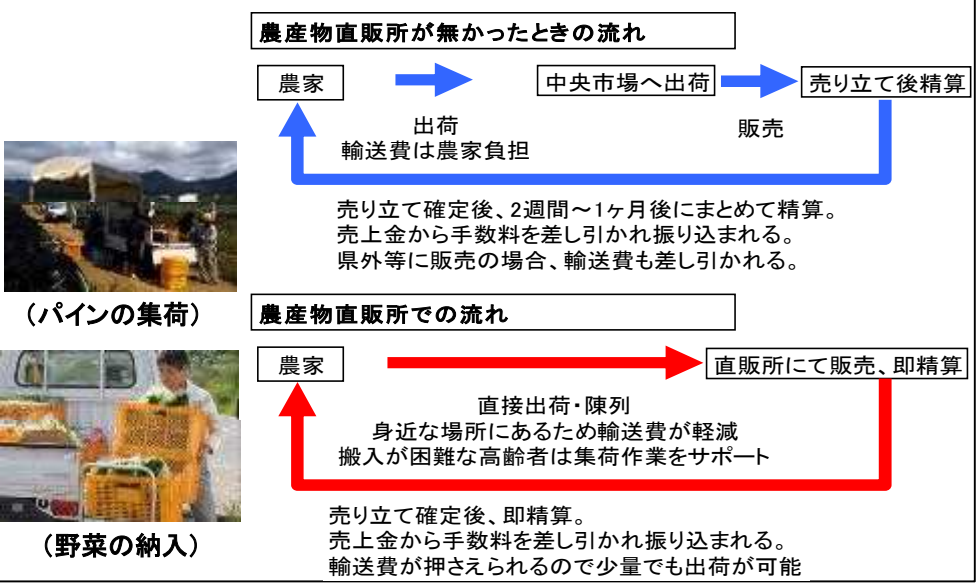


人気商品となった地元フルーツを使ったケーキ



規格外農産物を加工販売
地元農家の収益に寄与

- 高齢者農家支援として、「道の駅」職員による集荷作業を実施（「道の駅」ゆいゆい国頭、「道の駅」許田）
- ・輸送費軽減及び新たな収益の場の提供。農家の収益が増加することにより、安定して農業に従事することが出来、農業離れの歯止めを図る。



- 「道の駅」と大学が連携し、大学生のアイデアによる観光プランや情報発信手法の提案や新たな特産品の商品開発などを進める。
- 地元農林高校による特産品を活用したオリジナル商品の販売促進。（5月10日の「黒糖の日」に合わせてイベント開催）（「道の駅」許田）



名桜大学と「道の駅」と国道事務所との連携協定調印式



(地元高校生による商品の製造と販売PR)



- 地元特産品の販売（「道の駅」喜名番所を除く各駅）



(賑わう販売所)



(野菜)



(魚)



(果物)



(地元特産・マンゴー)



(地元特産・パイン)

3.交通網の整備【那覇空港の就航路線】

令和元年度においては、

- 国際線 13路線に就航。R2/3/29よりゼロ
- 沖縄県外の空港との間に26路線が就航。
- 沖縄県内の拠点であり、県内の離島との間に7路線が就航。

<国際線>

就航先

・13路線 130往復/週 →R2/3/29よりゼロ
ソウル 38、北京 4、天津 2、上海 7、南京 2、
杭州 2、香港 7、重慶 3、青島 2、台北 42、
台中 7、高雄 9、シンガポール 5

重慶

北京

天津

青島

ソウル

南京

上海

杭州

台北

台中

高雄

香港

石垣

下地

宮古

那覇空港

<国内線>

— 国内線
— 国際線
— 本邦LCC

就航先(県内)

就航先(県外)

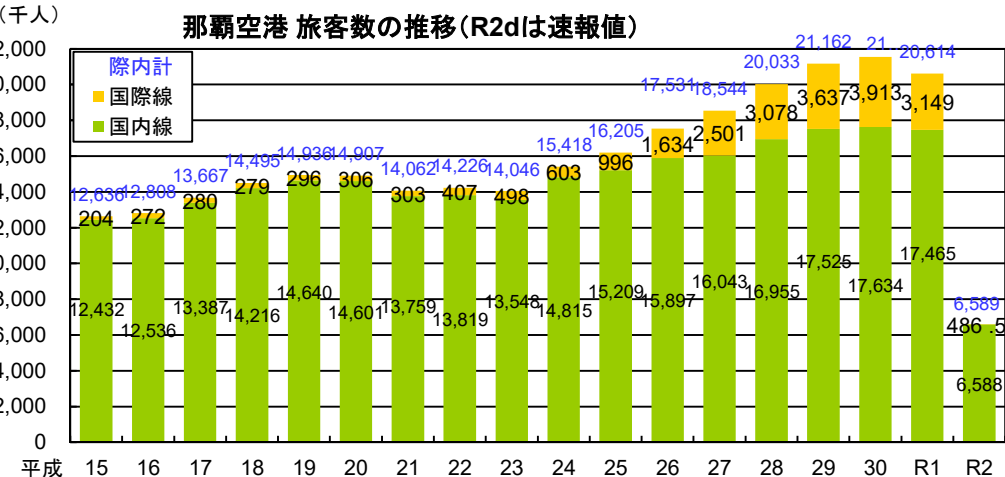
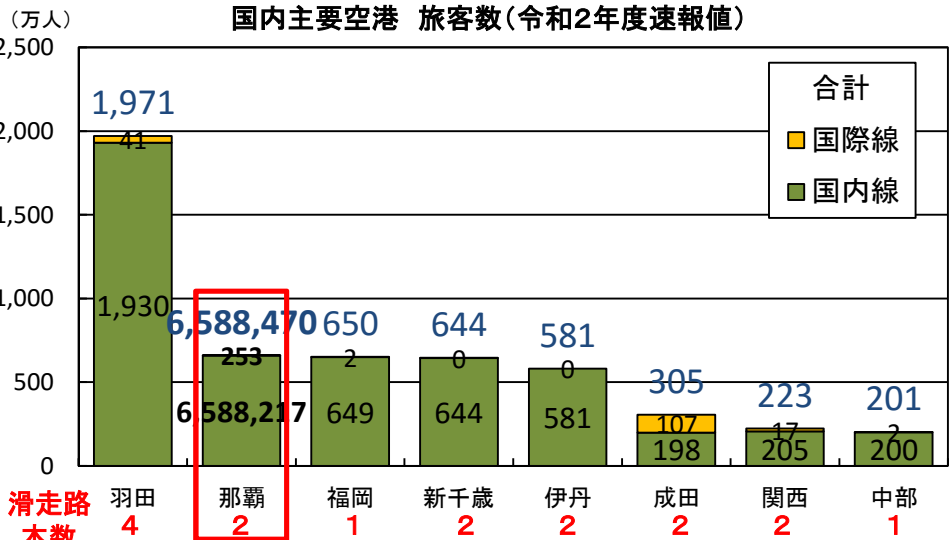
・26路線 135往復/日 →5/6時点 106往復
新千歳 20、仙台 21、成田 26、東京 3730、茨城 1、新潟 40、
小松 1、静岡 1、中部 16、大阪 9、関西 4210、神戸 26、
岡山 1、広島 1、岩国 40、松山 40、高松 40、北九州 1 福岡 2215
長崎 1、熊本 1、宮崎 1、鹿児島 2、奄美 40、沖永良部 1、与論 1

・7路線 45往復/日 →5/6時点37往復
久米島 76、北大東 1、南大東 2
宮古 4410、下地 21、石垣 1817、
与那国 1

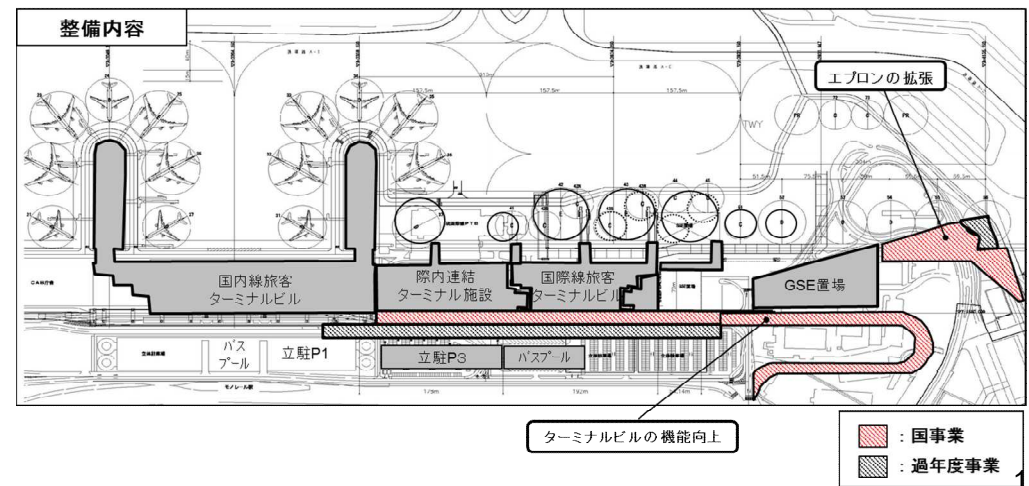
※令和3年 夏期ダイヤ

3.交通網の整備【那覇空港国際線ターミナル地区再編事業、滑走路改良事業】

- 那覇空港は、沖縄のリーディング産業である観光・リゾート産業をはじめとして、さまざまな経済活動や県民生活を支える重要な社会基盤となっています。滑走路1本の空港としては国内で2番目に利用度が高い空港であったため、将来の航空需要に適切に対応するとともに、観光立県沖縄の持続的発展に資するよう、那覇空港の沖合に2本目の滑走路Bを整備し、令和2年3月26日に供用を開始しました。
- 令和3年度は、国際線需要の増加による混雑及び増設滑走路の供用により増加が見込まれる航空需要へ対応するため、エプロン拡張、国際線ターミナルビルの機能向上（高架道路延伸）等に必要な整備を引き続き実施します。



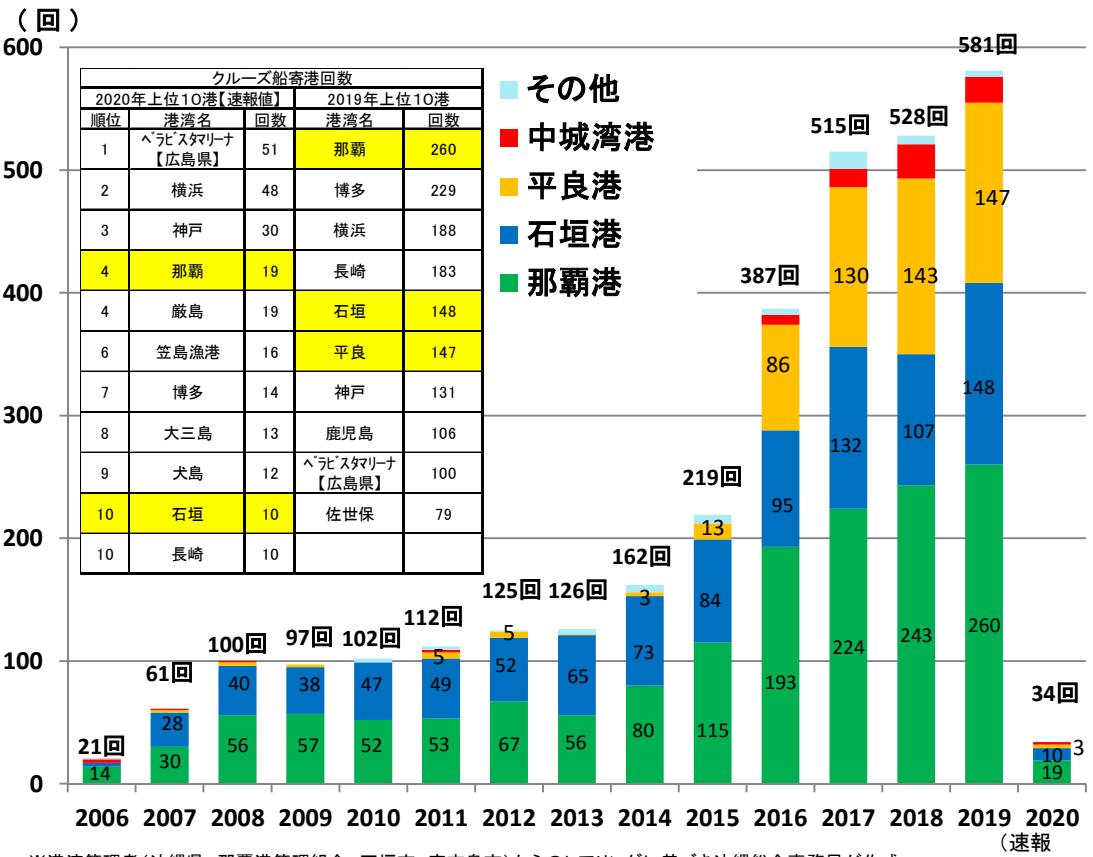
出典：空港管理状況調査(国土交通省)、東京航空局HP、大阪航空局HP



3.交通網の整備【寄港増加・大型化する沖縄のクルーズ船】

- 2020年の県内クルーズ寄港回数は34回となっており、この大幅な減少は、新型コロナウイルス感染症によるクルーズ船の運航休止によるもので、2020年2月23日以降、県内へのクルーズ船の寄港はありません。※2020年寄港回数は速報値
- 新型コロナウイルス感染症流行前は、寄港回数が毎年増加しており、2019年には過去最多である581回を記録しました。寄港する船舶も大型化しており、今後、クルーズ船の受入再開時には、更なる大型船の寄港も見込まれています。

【沖縄へのクルーズ船の寄港回数の推移】



※港湾管理者(沖縄県、那覇港管理組合、石垣市、宮古島市)からのヒアリングに基づき沖縄総合事務局が作成。
※2021年1月18日時点。

【沖縄県内へ寄港するクルーズ船の最近の動向】

・沖縄には、「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」等アジアに寄港する最大クラスの船舶が寄港するなど、県内においても大型化が進行している。

船名	船型、同縮尺イメージ	総トン数	乗客定員
SuperStar Aquarius ('11年沖縄初寄港)	 全長230m	51,309 トン	1511人
Sapphire Princess ('17年石垣、平良初寄港)	 全長290m	115,875 トン	2,670人
Voyager of the Seas ('12沖縄初寄港、'19石垣初寄港)	 全長311m	138,194 トン	3,602人
Genting Dream ('17年沖縄初寄港)	 全長335m	150,695 トン	3,352人
Spectrum of the Seas ('19年沖縄発寄港)	 全長347m	169,379 トン	4,246人
Oasis of the Seas (世界最大級のクルーズ船)	 全長361m	225,282 トン	5,484人

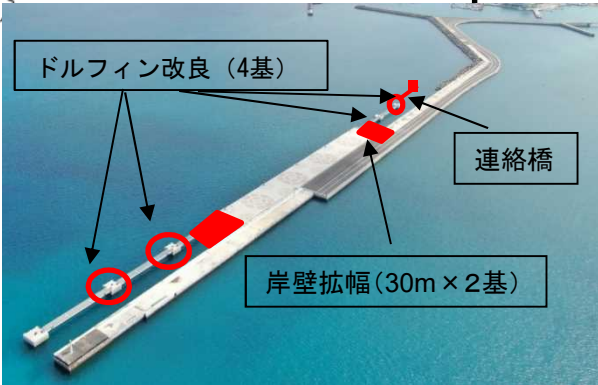
・2022年には、更に大型した船舶、Wonder of the Seas(23.6万トン)が沖縄(那覇・石垣)へ寄港予定。

3.交通網の整備【クルーズ船受入施設整備状況】

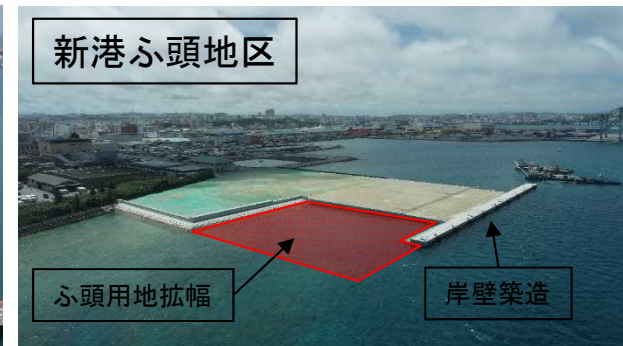
《本部港》
本部地区 20万トン級対応に向け整備中（沖縄県）
令和3年度完了予定



《平良港》
漲水地区 14万トン級対応（2020年3月完成）
22万トン級対応に向け整備中



《那覇港》
泊ふ頭地区 17万トン級対応（2009年9月供用開始）
新港ふ頭地区 22万トン級対応に向け整備中



《石垣港》
新港地区 22万トン級対応の岸壁が完成（2021年4月）



3.交通網の整備【クルーズポートコンソーシアム沖縄】

- クルーズ船受入施設の整備とともに、質の高いクルーズや、県内の寄港回数増加を促進する取組も関係者とともにを行っています。
- 県内港湾へのクルーズ船の寄港に関し、寄港誘致に関する課題と改善策等を意見交換し、効果的なポートセールスにつなげることを目的とし、令和2年に「クルーズポートコンソーシアム沖縄」を設立しました。
- 「東洋のカリブ構想」で示された沖縄発着クルーズ等を促進するため、各港湾管理者（沖縄県、那覇港管理組合、石垣市、宮古島市）とともに予約方法改善の検討を実施し、本年5月には、中城湾港・本部港・石垣港・平良港にて、ルールが統一された優先予約（2023年分）を試行しました。
- 本優先予約により行程ごとの予約が可能となり、沖縄発着クルーズ等の促進の他、船会社・代理店等の手続きの手間が省くことができ、港湾管理者としても、予約変更・キャンセル削減を期待しています。

これまでの課題

- それぞれの港湾に対し予約が必要。
- 予約開始時期、申請内容も管理者によって異なる。
- 予約の結果公表時期もバラバラであるため、予約の仮押さえなどが発生し、重複した予約や直前でのキャンセルが発生し、各港での機会損出が発生。

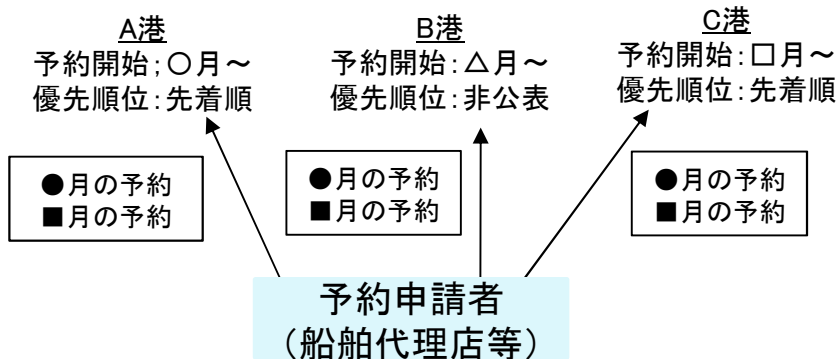
優先予約のメリット、成果

- 各行程ごとの申請が可能となったことで、重複予約を事前に防止し、各港の機会損出を軽減。
- 沖縄県の観光振興方針と整合を取り、統一した考え方で予約を確定するため、県全体での効果的なポートセールスが可能となる。
- 2023年の優先予約の結果、発着クルーズ18回（県内寄港回数合計46回※）、ワールドクルーズ22回の予約が入った。

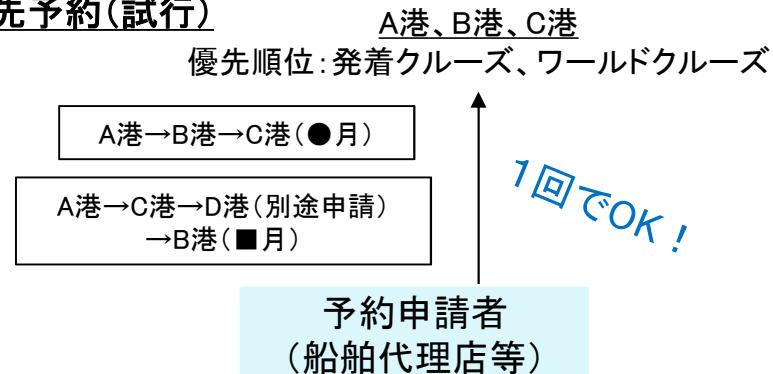
※イメージ

（例）●月にA港→B港→C港、
■月にA港→C港→D港（県外）→B港 の予約を希望する場合

これまで



優先予約(試行)



※(例)那覇(出発港)→石垣→平良→那覇(到着港)の場合、発着クルーズ1回、県内寄港回数合計4回と計算。

3.交通網の整備【竹富南航路の整備】

- 竹富南航路は、八重山諸島の中心である石垣島と小浜島、黒島等の周辺の島々を結ぶ唯一の航路であり、住民の生活航路として、また観光航路として重要な役割を果たしています。
- 当該海域は浅瀬が多く、日中のみの運航に制限されており、また、海難事故が発生している海域であることから、地域住民や来訪者が利用する船舶航行の安全を確保を目的として、平成23年から浚渫工事を行っています。
- 2021年7月には、西表島が世界自然遺産に登録され、観光客のアクセスの利便性向上が図られます。
- なお、国内でも有数のサンゴ礁海域である石西礁湖に位置するため、環境へ配慮した取り組みを行っています。

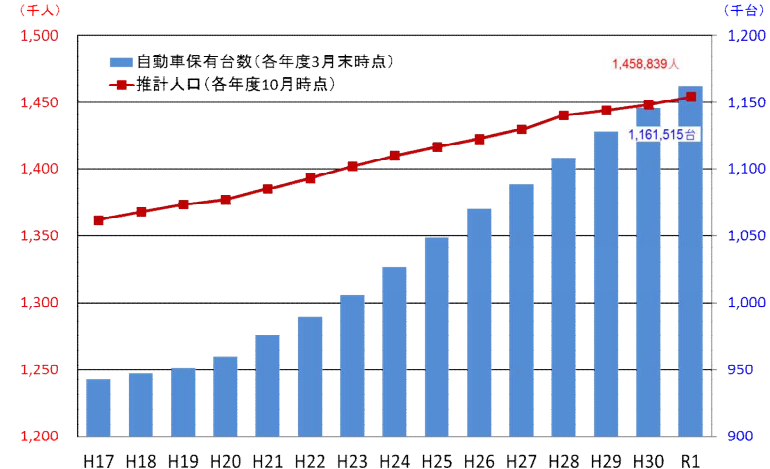
【竹富南航路】住民の生活航路、観光航路として島々を結ぶ唯一の航路



3.交通網の整備【沖縄の道路交通の現状(1)】

- 人口・自動車数の増加に伴い、中南部圏域の交通容量が不足しているため慢性的な交通渋滞が発生。
- 観光客も含め、県民の足が自動車に依存しており、道路ネットワーク整備とソフト対策が急務。

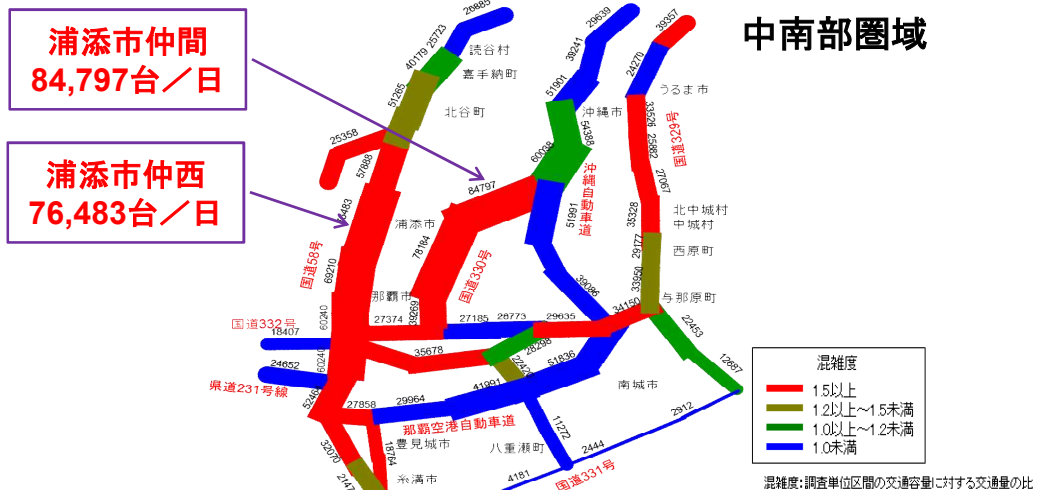
◆沖縄県の人口増加に伴い、自動車保有台数も増加



出典：沖縄県統計年鑑・運輸要覧・業務概況(沖縄総合事務局)

【沖縄県の推計人口と自動車保有台数の推移】

◆中南部圏域の主要幹線は容量オーバー



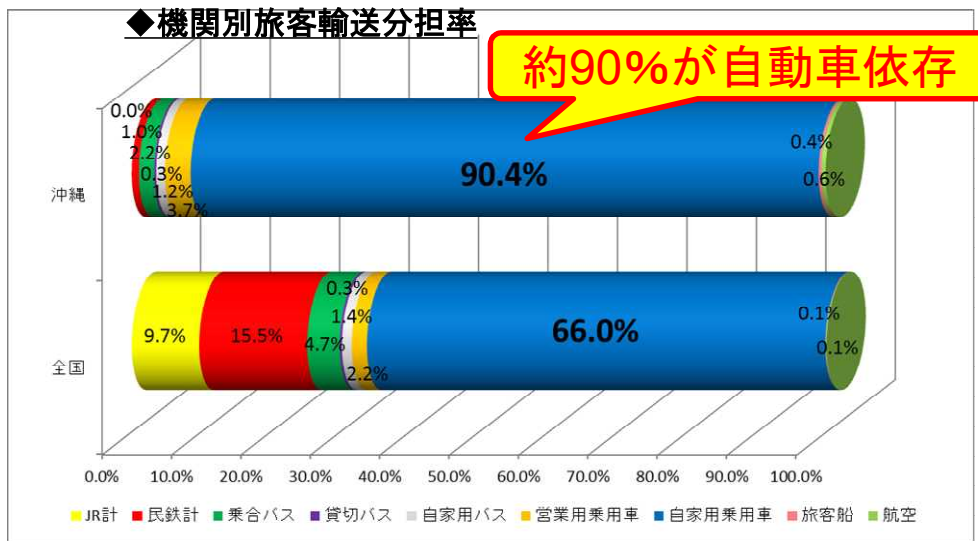
中南部圏域

混雑度：調査単位区間の交通容量に対する交通量の比

【H27年度区間別交通量図】

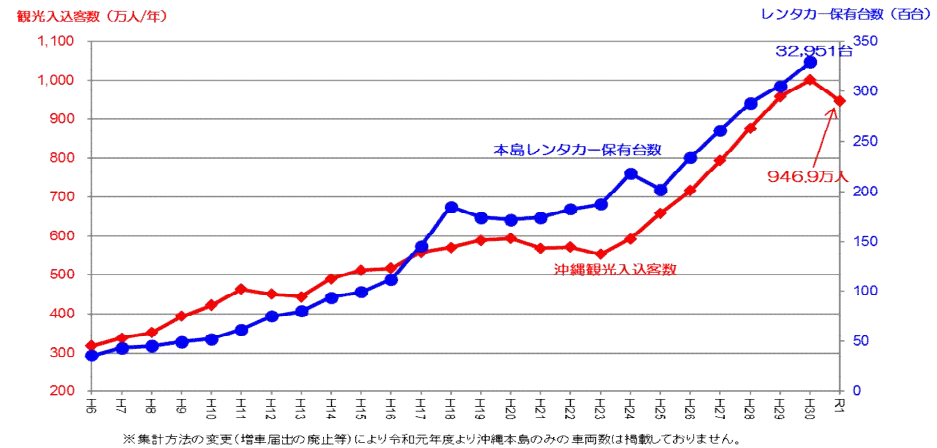
◆機関別旅客輸送分担率

約90%が自動車依存



出典：旅客地域流動調査(H21年度)

◆観光客の移動手段はレンタカー



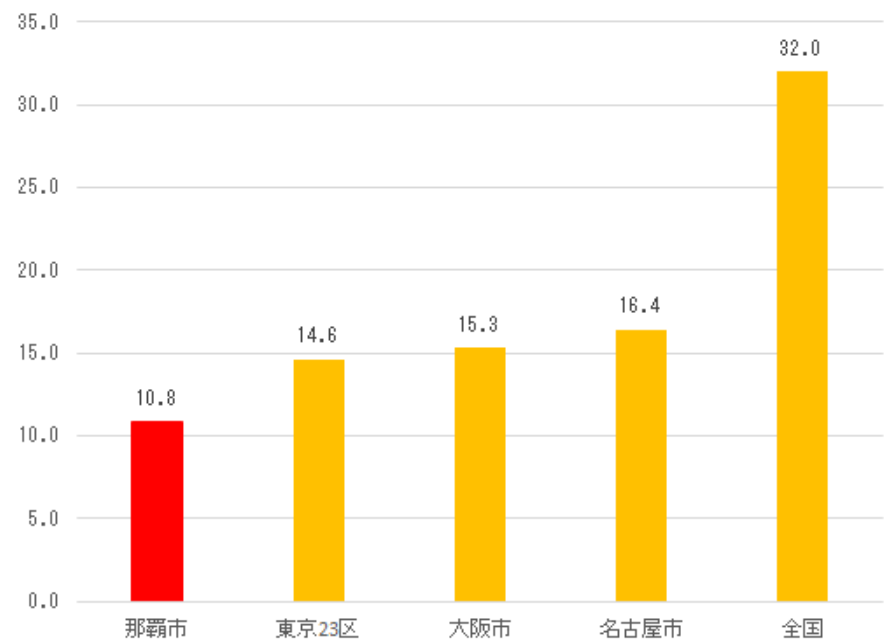
※集計方法の変更(増車届出の廃止等)により令和元年度より沖縄本島のみの車両数は掲載しておりません。

【県外観光入込客数とレンタカー保有台数の推移】

出典：入域観光客統計概況(沖縄県)、運輸要覧・業務概況(沖縄総合事務局)

3.交通網の整備【沖縄の道路交通の現状(2)】

◆那覇市内の速度は全国ワーストクラス



【平日混雑時平均旅行速度の比較】

データ: H27全国道路・街路交通情勢調査



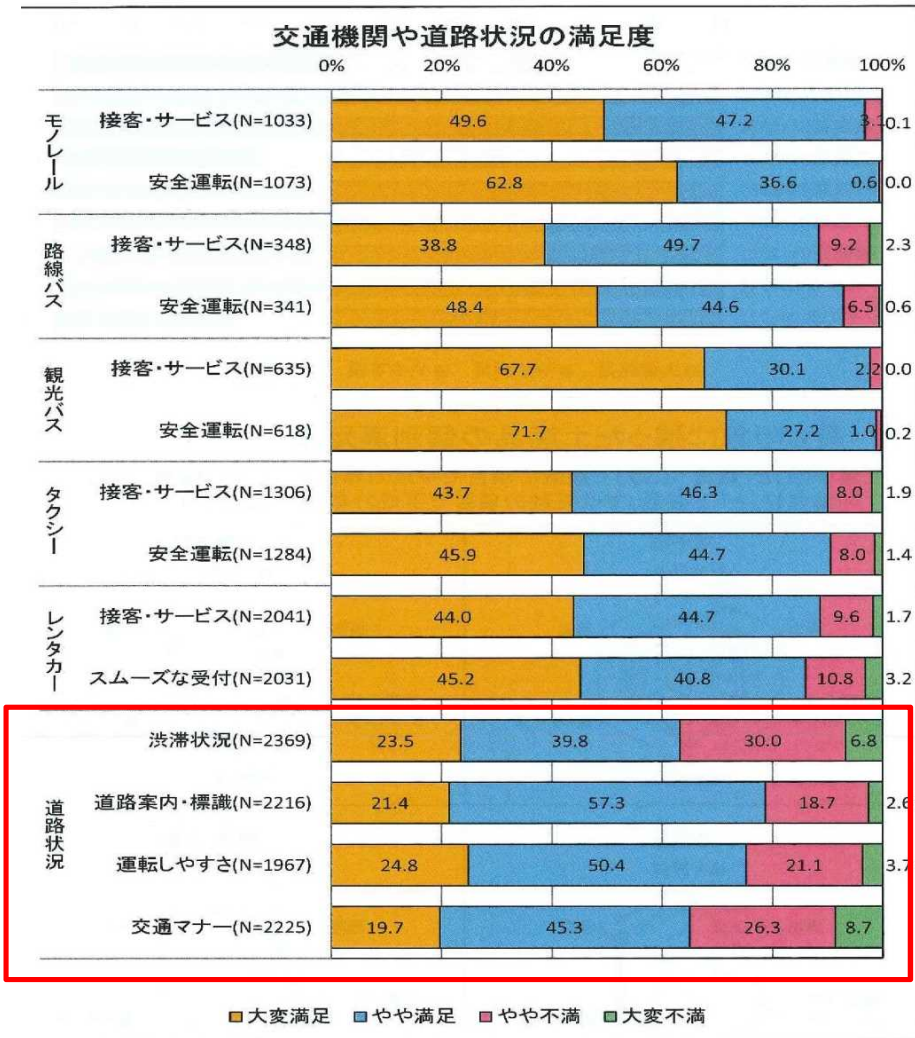
R58号 那覇市前島



R58号 那覇市泊

◆ 交通機関や道路状況の満足度

- 「道路状況」については全体的に不満を感じる比率が多い。特に『渋滞状況』や『交通マナー』では“やや不満”“大変不満”が3割を超える。
- 「観光バス」は『接客・サービス』『安全運転』ともに他に比べ“大変満足”の比率が多い。



出典: 沖縄観光の満足度(平成24年度 観光統計実態調査(沖縄県))

3.交通網の整備【道路ネットワーク(ハシゴ道路)】

【ハシゴ道路】 ○長期間を要する事業ほど、段階的な進捗と効果の発現を示すことが重要
○3本柱において、交通配分にアンバランスが発生(沖縄自動車道への交通を配分)
○交通の集中する西海岸、特に2環状と放射道路が重なる箇所を重点整備

■南北を走る強固な【3本の柱】

【西側の柱】国道58号

【中央の柱】沖縄自動車道

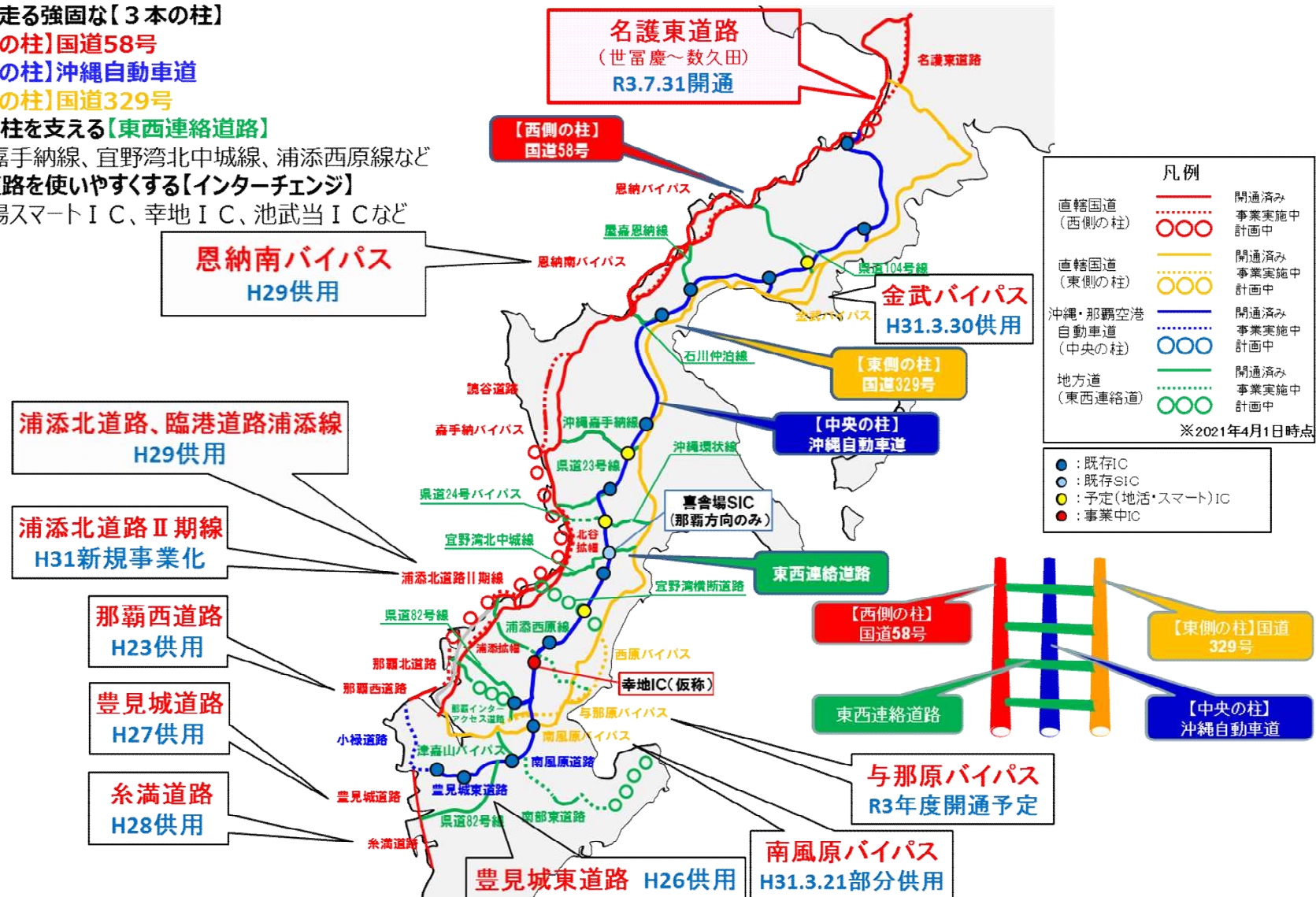
【東側の柱】国道329号

■ 3本の柱を支える【東西連絡道路】

沖縄嘉手納線、宜野湾北中城線、浦添西原線など

■ 高速道路を使いやすくする【インターチェンジ】

喜舎場スマートIC、幸地IC、池武当ICなど



3.交通網の整備【観光振興を支援する道路整備】

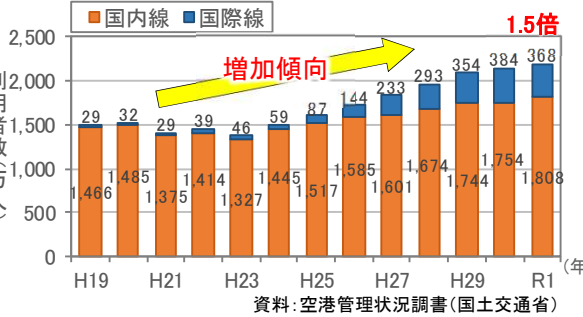
- 那覇空港の利用者数、沖縄県の入域観光客数、豊見城市、糸満市の宿泊施設収容人員は増加傾向となっている。(図2,3,4)
- 沖縄県の玄関口である那覇空港、那覇港の発着回数も増加傾向となっており、空港、港湾を利用した観光需要が増加していると考えられる。(図5,6)
- (那覇空港は令和2年3月に滑走路を増設し供用、那覇港は令和元年のクルーズ船寄港回数が全国1位)
- 観光の起点となる空港、港湾へのアクセス道路である豊見城道路・糸満道路の整備は、観光産業の活性化に寄与しているといえる。

●(図1)那覇空港、那覇港および南部地域の主要観光施設

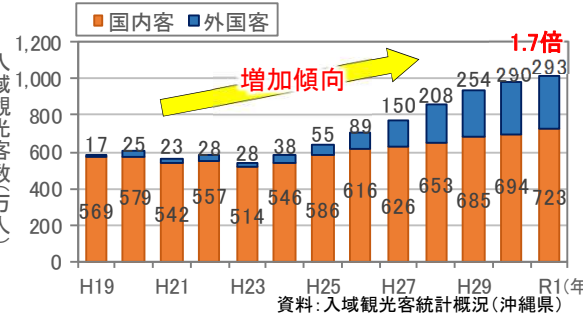


資料:観光、道の駅は沖縄総合ガイドブック2020年発行を基に作成
※施設等は南部地域(南城市、八重瀬町、糸満市、豊見城市、南風原市)を表示

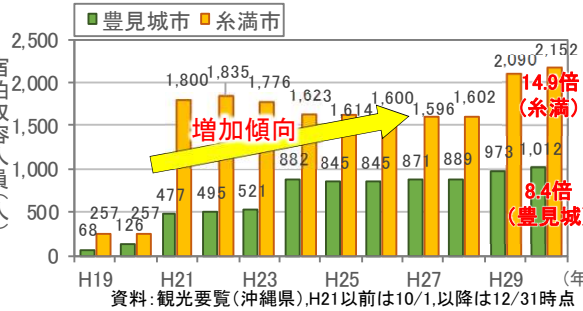
●(図2)那覇空港の利用者数の推移



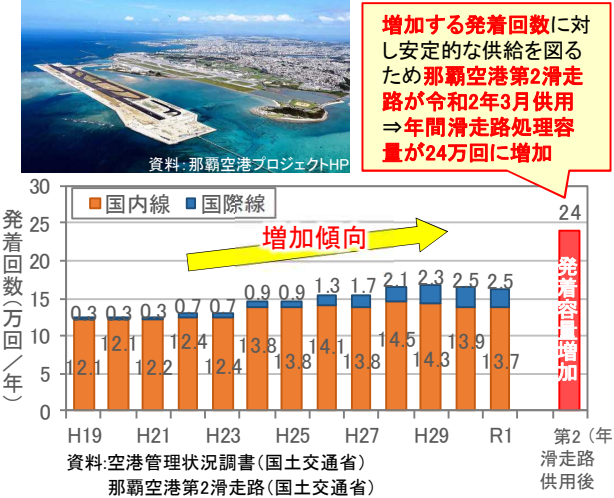
●(図3)沖縄県の入域観光客の推移



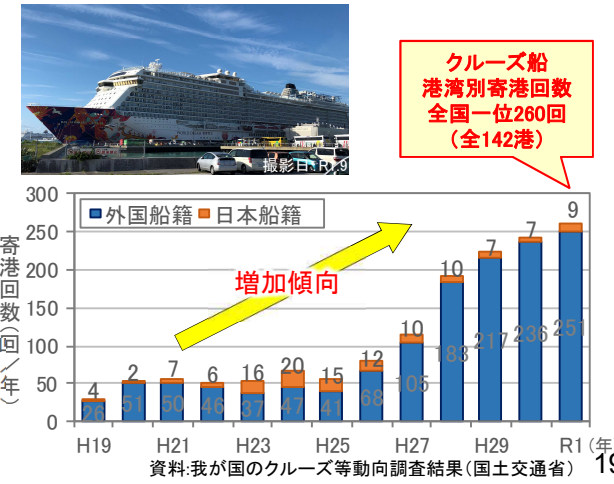
●(図4)豊見城市・糸満市の宿泊施設収容人員の推移



●(図5)那覇空港における発着回数の推移【那覇空港滑走路増設事業R2年3月供用】



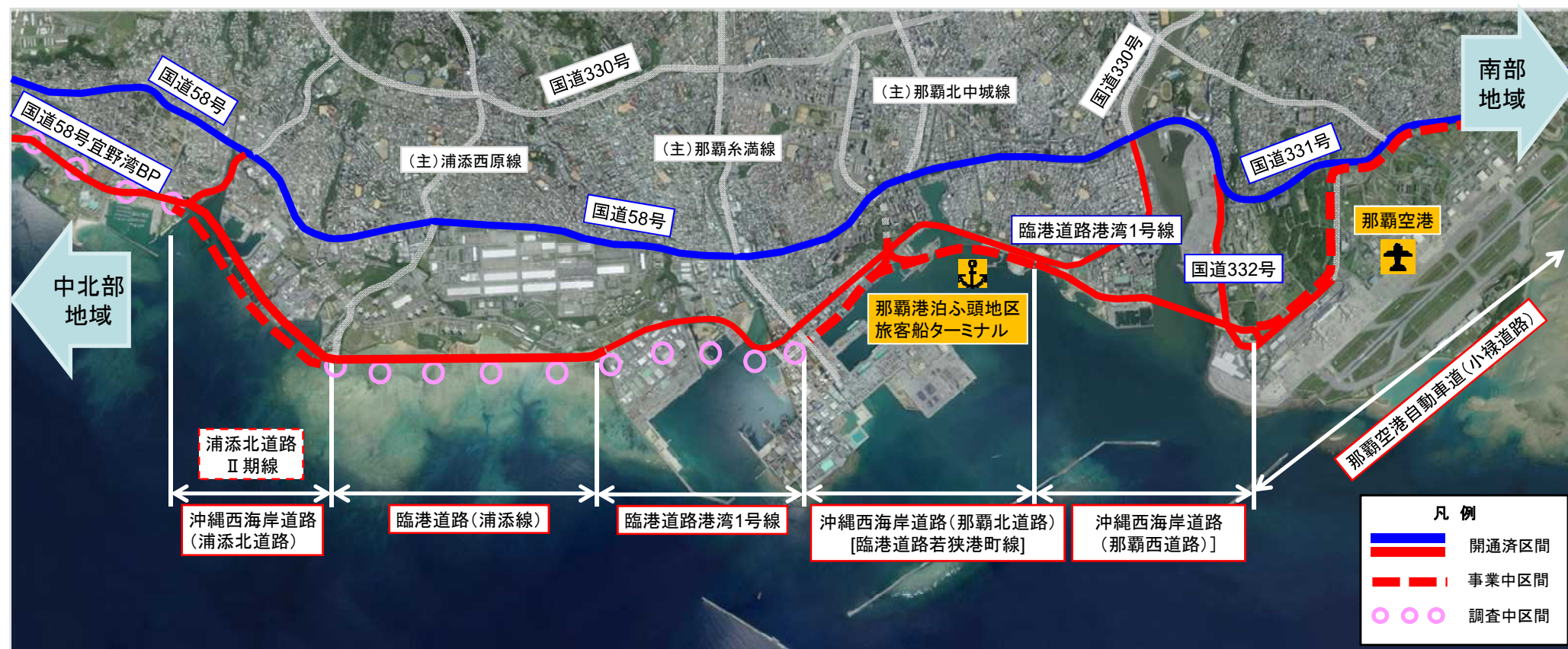
●(図6)那覇港におけるクルーズ船寄港回数の推移



3.交通網の整備【那覇都市圏における外郭環状道路の機能強化】

- 沖縄西海岸道路及び臨港道路により、西海岸地域の外郭環状道路を形成。
- 那覇空港や那覇港と主要拠点間のアクセス向上及び、那覇都市圏の渋滞の緩和により、地域経済の活性化に貢献する。

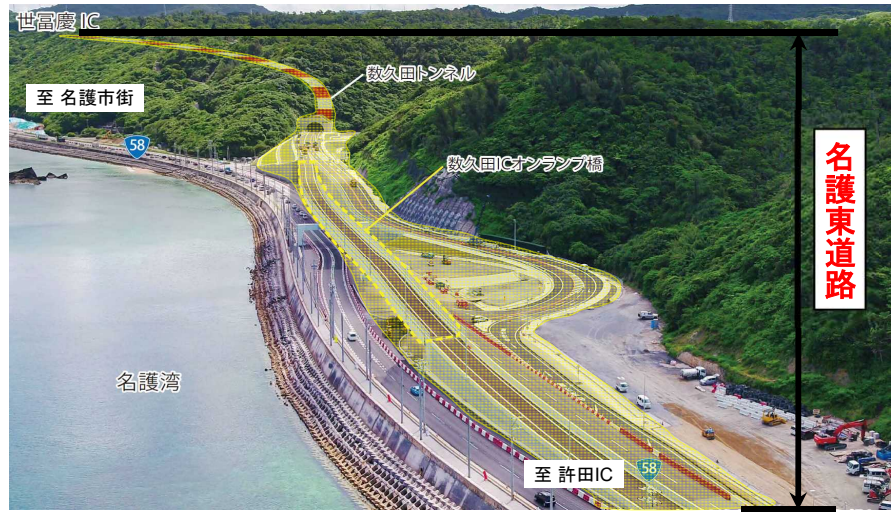
《事業位置図》



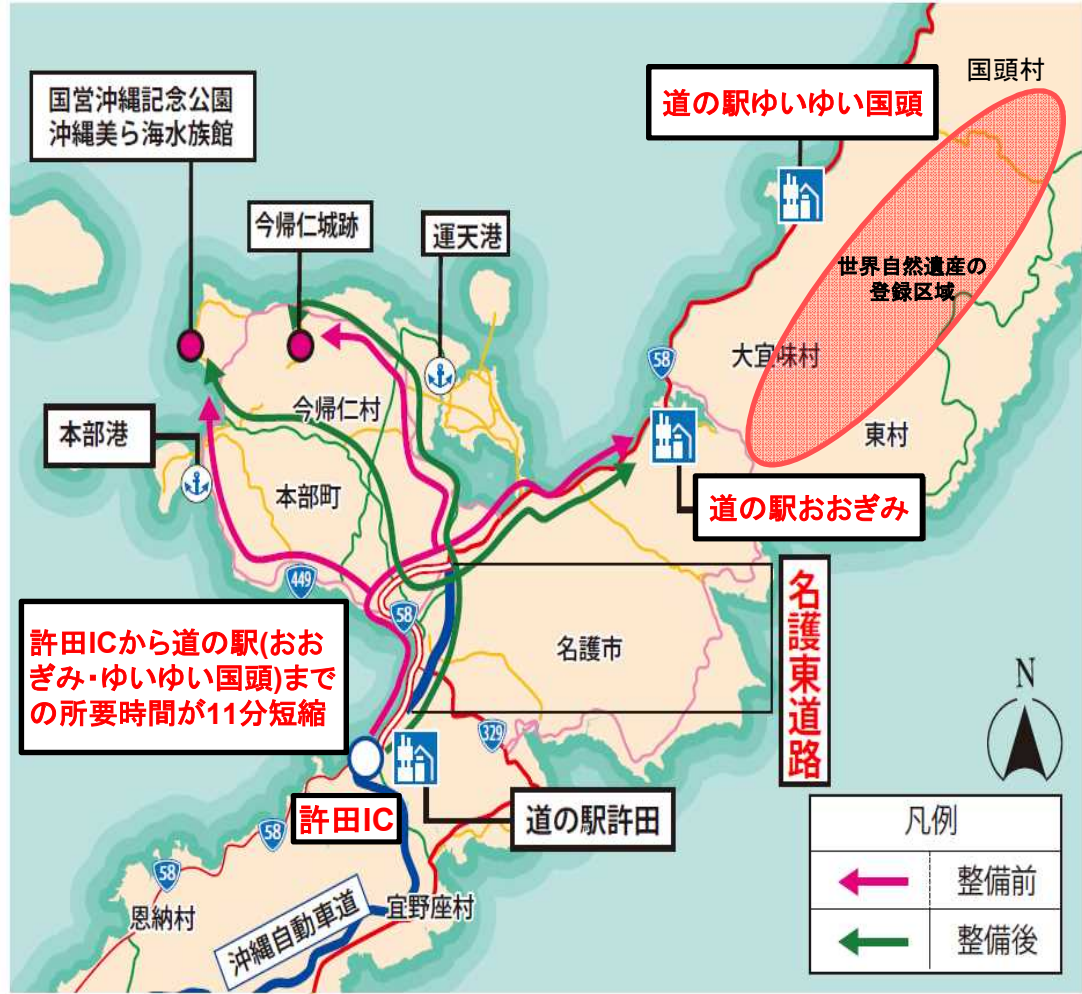
3.交通網の整備【名護東道路開通による効果】

○ 名護東道路の開通(R3.7.31)により、令和3年7月に世界自然遺産の登録が正式決定された区域へのアクセス向上。
 ※許田ICから世界遺産登録近傍の道の駅(おおぎみ・ゆいゆい国頭)までの所要時間が11分短縮。

●道の駅許田付近から名護市街地方面を望む



※整備前の値: プローブデータ (GW:H31.4.27~R1.5.6) の各12時間平均所要時間
 整備後の値: 名護東道路は設計速度 (60km/h)、その他は整備前と同様



4.情報発信の拡充【観光情報満載の「道の駅」】

- 「道の駅」は、休憩やショッピングと合わせて、観光・地域情報を入手するのに最適。
- 「道の駅」は、地元が知る地域の名所等を活かした観光・地域情報発信のキーステーション。

○観光案内

- ・観光案内人が常駐し、北部地域全体の観光名所を情報提供。JNTO外国人観光案内所(カテゴリー1)の認定を受け、インバウンド受入に対応(「道の駅」許田)



○道路情報・観光情報の提供

- ・タッチパネルによる道路・観光情報提供など役に立つ情報が満載(各駅)



○離発着情報の提供

- ・那覇空港に近接しており、出発までの空き 時間を利用して、訪れる観光客も多いため、JAL、ANA等の飛行機発着情報などを提供(「道の駅」豊崎)

離発着情報提供



便名	出発地	定刻	変更	備考
901	東京	09:00	08:58	手荷物受取中
1762	石垣	09:05	08:57	
872	久米島	09:15	09:02	
511	東京	09:20	09:50	
51	福岡	09:35	09:23	
552	宮古	09:40	09:36	
133	成田	09:40	09:25	
600	石垣	09:45	09:43	



- 展望台から極東最大の嘉手納基地への飛行機の離発着が一望でき、多くの観光客や修学旅行生が訪問(「道の駅」かでな)

嘉手納基地



道の駅の展望台

4.情報発信の拡充【進化する「道の駅」(ゲートウェイ型、地域センター型)】

- ドライバーの休憩施設として生まれた「道の駅」は、まちの特産物や観光資源を活かしてひとを呼び、地域にしごとを生み出す核へと独自に進化。
- 「道の駅」による地方創生拠点を形成し、「活力を呼び、雇用を創出、地域の好循環」を目指す。
- 「道の駅」の機能強化を図るため、地域活性化の拠点となる先駆的な取組を重点「道の駅」として平成27年度に道の駅「ぎのざ」、平成30年度に新たに道の駅「許田」を選定し、重点的に支援していく。

○ゲートウェイ型【地域外から活力を呼ぶ】

インバウンド観光（観光で人を呼ぶ）

外国人ニーズの高いサービスを提供、訪日観光を促進

外国人観光案内所、免税店、無料公衆無線LAN、EV充電設備、海外対応ATM設置 等

【現在の状況】

- ・無線LAN(ゆいゆい国頭、おおぎみ、許田、ぎのざ、かでな、喜納番所、豊崎、いとまん)
- ・EV充電器(ゆいゆい国頭、許田、いとまん)



無料公衆無線LAN

観光総合窓口（観光で人を呼ぶ）

地域の観光総合窓口として、地域の価値・魅力を向上
地域全体の観光案内 等

【現在の状況】

- ・北部地域全体の観光案内(許田)
- ・染め織物[ウージ染め]体験(豊崎)
- ・体験機会の窓口(ゆいゆい国頭)



地域全体の観光案内(許田)

地方移住等促進（移住で人を呼ぶ）

地方移住相談や移住体験ツアー窓口の設置、ふるさと納税の情報提供等により、移住を推進

[地方移住のワンストップ窓口、ふるさと納税の情報提供 等]

○地域センター型【地域の元気を創る】

産業振興（特産品で盛り上げる）

地域特産品を活かしたオリジナル商品開発・販売、観光資源のパッケージ化等 による観光ニーズの呼び込み

地域特産品のブランド化、6次産業化、直売所の設置 等

【現在の状況】

- ・オリジナル商品開発・販売(許田)
- ・直売所の設置(ゆいゆい国頭、おおぎみ、許田、ぎのざ、かでな、豊崎、いとまん、サンライズひがし)



オリジナル商品の開発・製造・販売(許田)

地域福祉（「小さな拠点」をつくる）

多様な住民サービスを提供、地域を支える小さな拠点

診療所、役場機能の提供、地域公共交通ネットワーク乗継拠点、高齢者住宅の併設 等

防災（防災力を強化する）

災害時に高度な防災機能を発揮、地域の防災拠点化

広域支援の後方支援拠点、防災教育等

【現在の状況】

- ・支援物資集積所、非常時電源
- ・防災拠点施設を整備(いとまん)

○地域活性化の拠点を形成する重点「道の駅」

- 【全国モデル「道の駅」】

【特定テーマ型モデル「道の駅」】

【重点「道の駅」】

【重点「道の駅」候補】
- ・地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの(H26選定:6駅)
 - ・特定テーマについて、「道の駅」の質的向上に資する全国の模範となる取組を行い、その成果が認められるもの(H28住民サービス部門:6駅、H29地域交通拠点部門:7駅)
 - ・地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの(H26選定:35駅、H27選定:38駅、H30選定:15駅、R1選定:15駅)
 - ・地域活性化の拠点となる企画の具体化に向け、地域での意欲的な取組が期待できるもの(H26選定:49駅、H30選定:14駅、R1選定:15駅)